



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 23
R6. 6. 12
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム & チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

旅先で吹いた爽やかな南の風

61名全員の6年生が修学旅行(仙台・松島)に行ってきました。全員が参加できたこと、本当に嬉しく思います。お天気にも恵まれてとても充実した修学旅行になりました。

出発式で、子ども達に「仙台・松島で爽やかな南の風を吹かせましょう」と話をしたのですが、宿泊したホテルで、素敵な出来事がありました。お世話になったホテルの方々に感謝のメッセージを書いて、自分たちが泊った部屋に書き置きをしていった子どもたちがいました。こんな素敵な心づかいができる子ども達を誇りに思います。爽やかな南の風が松島に吹きました。



子どもたちが部屋に残したメッセージ

何のために修学旅行に行くのか

一教師として修学旅行を単なる思い出づくりで終わらせるのは、勿体ないことだと考えています。最上級生の6年生が見学先を訪れること、泊りがけで集団生活をするに大きな意味をもたせ、何のために修学旅行に行くのか、私なりに考えました。



旅行の前に「修学」の文字があります。つまり、旅行である前に「学習」なのです。修学旅行でしか学べないことがあります。では、何を学ぶのか。

一つには、実際に目で見て触れて、見学先の魅力(歴史、自然、文化、人の暮らし等)を体感すること。

一つには、宿泊を伴う集団生活をする中で、ルールやマナーを守り、学校の代表としての役割を立派に果たすこと。

一つには、これまで以上に仲間のよさを実感し、絆を強くすること。



子ども達は、メリハリをつけて、楽しむ所では、大いに楽しみ、真剣に学ぶべき所では、それにふさわしい態度で学ぶことができました。下の写真は、震災遺構「荒浜小学校」を見学する様子です。ガイドさんの話に真剣に耳を傾けてメモを取る姿がありました。真剣なまなざしで被災した校舎を目の当たりにし、言葉では表せない大切な何かを感じ、学ぶことができたのではないかと思います。



震災遺構の荒浜小学校で
真剣な表情で説明を聞き
見学する子どもたち

仙台駅から仙台市内の
班別自主研修へ出発!



二日間の修学旅行を通して、そんなに仲良くなかった友達の意外な一面を知ったり、実はすごく気が合うということが分かったり、などということもあったことでしょう。楽しい体験を共有すると、仲間意識が格段に高まります。

そんな最高の学びを、61名全員が獲得してくることができたのは、保護者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。早朝、夕刻の送迎にもご協力くださったこと、改めて感謝申し上げます。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。